

シリーズ 「私の森語り」

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。

「山と街をつなぐ」



岸田木材株式会社 専務取締役 岸田 真志

■自己紹介

大学卒業後、大手建設会社に入社し、東京や北海道で総務や営業の経験を積みました。二〇一八年、子どもの小学校入学を機に同社に入社し、現在は専務として営業だけでなく新規事業開発にも携わっています。

■活動内容

当社の本業は製材業ですが、近年、『山と街をつなぐ』取組みを進めています。

製材の現場では日々規格外の木材製品が発生します。○を□にするのに製品に丸みがついていると

NG、節があるからダメ、既定の数量でないと売れない…。でも、その価値観はこれまでの商慣習に縛られているだけで、規格からはじかれた製品であっても、使い次第ではまだまだ役に立つのではと考え、商店街の空き店舗を活用して木材の端材のアウトレットショップ「ヒミブリコラボ」を二〇二二年八月に開設しました。スギやヒノキ、カシなどの端材を販売し、DIY需要を見込んだワークショップも開催しています。また、軽トラの荷台に搭載可能な「ひみ里山杉」で作ったサウナを制作し、屋外サウナの体験イベントにも出店するな



ヒミブリコラボ



軽トラサウナ



「ウッドデザイン賞2022」を受賞した「ひみ里山杉からできたインク」京都の文具メーカーとのコラボ

ど、見る人がわくわく楽しくなるような活動もしています。さらに、「ひみ里山杉」のストローや樹皮を原料にしたインク、チップを原材料に使用したビールの開発にも取り組んでいます。インクとブリコラボの取組みは二〇二二年のウッドデザイン賞にも選出され、それなりに面白がっています。木材がもつとみんなの生活に当たり前に溶け込んでいる社会となるよう、もつと身近に感じてもらい、里山の保全と持続可能な社会になることを目指していきたいです。

■メッセージ

岸田木材株式会社は、地域の資源を活用し、地域と共に歩む企業として、持続可能な地球環境と健康で幸福な社会を目指しています。「ひみ里山杉」を通じて木の魅力を広く伝え、これからも新たな価値を創造していきます。

■連絡先

富山県氷見市 十二町万尾前二四七―一 岸田木材株式会社 <https://kishidamokuzai.co.jp/>



北陸3県（石川・富山・福井）の県産材活用連携事業「キノワホクリク」によるクラフトビール「すぎのわ」

